【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成29年5月25日(2017.5.25)

【公表番号】特表2017-509627(P2017-509627A)
【公表日】平成29年4月6日(2017.4.6)
【年通号数】公開・登録公報2017-014
【出願番号】特願2016-556870(P2016-556870)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　6/083　(2006.01)
Ｃ０８Ｆ　20/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　6/083　５３０
Ａ６１Ｋ　6/083　５００
Ａ６１Ｋ　6/083　５１０
Ｃ０８Ｆ　20/30

【手続補正書】
【提出日】平成29年3月17日(2017.3.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
式（ＩＩ）によるフェナントレン誘導体中、R^1、R^2、R^3、R^4、R^5、R^6、R^7、R^8、R^9及びR^{10}のいずれかは水素原子であってもよく、又は、芳香族環は、置換基によって各位置で置換されるものであってもよい。置換基は、重合性置換基又は重合性でない飽和置換基を有する基であってもよい。本発明によれば、R^1、R^2、R^3、R^4、R^5、R^6、R^7、R^8、R^9及びR^{10}の２つ～４つの基は、重合性基を表し、残りの基は、水素原子、又は重合性でない飽和基である。したがって、式（ＩＩ）の化合物は、ラジカル重合において架橋モノマーとして作用する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９１】
式（Ｖ）中、単位ｔは、存在しても存在していなくてもよい。したがって、ｔは、０又は１若しくは２の整数とすることができる。単位ｔが存在しない場合には、重合性基がX^{IV}に直接結合する。単位ｔが存在する場合には、重合性基がX^{V}に直接結合する。重合性基中、R^{13}は、水素原子、又はヒドロキシル基若しくはカルボキシル基によって置換されていてもよい直鎖若しくは分岐状$C_{1～6}$アルキル基を表す。好ましくは、R^{13}は、水素原子又はメチル基を表す。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９７】

式（ＶＩ）中、単位ｐは、存在しても存在していなくてもよい。したがって、ｐは、０又は１若しくは２の整数とすることができる。単位ｐが存在しない場合には、Ｘ’が式（ＶＩ）の－ＸＣＯ基に直接結合する。単位ｐが存在する場合には、Ｘ’’’が式（ＶＩ）の－ＸＣＯ基に直接結合する。